

2020年9月29日(火) 国崎 ウタセ真鯛 功成丸 ツレと
 中潮:旧8/13 干潮 10:40(50cm) 満潮 17:11(206cm)干潮 23:05(77cm) 鳥羽
 自分 マダイ 3尾(32cm他) チダイ 10尾(31cm他) カンパチ 1尾 42cm
 ウスバハギ 1尾40cm ホンハギ 3尾25cm他 ウマヅラハギ2尾(36cm他)
 ツレ 船酔いのため釣りにならなかった。

10時00分 現地着 少し渋滞だった
 11時30分 集合
 12時00分 出船
 17時11分 満潮 206cm : 鳥羽
 18時00分 沖上がり



【料金】 乗り合い 12,000円 氷付き
 釣り座は抽選

【仕掛け】

竿 ウタセ真鯛用(自分) マダイ用竿(ツレ) 電動リール 竿受け 錘 10号~60号
 エビ用網 ‘かんこ’から魚をすくうためのタモ 魚を締めるためにゴム手袋 アイスピック
 自作仕掛け
 ハリス5号100cm 幹糸6号 枝間120cm 伊勢尼12号3本鉤 捨て糸3号50cm
 ※前回、船長より「ハリスは1mで十分だろう」と言われたので、今回は1mにしてみました。
 これで良かった。十分である。

【様子】

- 釣り座の抽選は5番くじ。右舷銅(後から2番目、3番目)に並んで釣ることになった。
- 天気は曇り、風は強い。波がかなり高い。
- 酔い止めは10時30分に飲んだが、ツレは乗船間もなく酔ってしまい、終日、釣りができなかった。
- 自分もやや船酔い気味である。
- 仕掛けの流れる向きは、後方だが船の下に入る向きだった。潮止まり後は、前方に流れたが、舟の下に入る向きだった。
- 「水深40m。底から10mまでを狙ってください。錘は40号。」とアナウンスがあった。
- 「餌取りがいるので、巻き上げながら誘うといい。タイが喰ってくるスピードで巻き上げて」ともアナウンスもあった。
- 「タイが喰ってくるスピード」ということだったので、初めスピード3でやってみた。ダメだった。スピード8でやってみた。ダメ。スピード5で試した。ヒットした。タイだった。
- スピード5がよいことが分かったので、これを繰り返した。
- やがて当たらなくなった。ダメ元で底に落とすことにした。おもりを底につけたままで、糸を吹かせておくという釣り方で試した。これが良かった。連続ヒットとなった。
- ダブル、トリプルもあった。隣の方に上手だと褒めてもらった。
- このころ、船長が「潮が動き出した」とつぶやいた。
- カンパチが来ないので移動することとなった。まだまだタイが当たっていたので少し残念だった。
- 移動後、底で釣っていたが、さっぱりダメ。「底に置いておくだけでは餌取りにやられるだけ。餌取りを

かわすために巻き上げスピードを変えたり、時々、誘いを入れたりする。」とアドバイスももらった。

- そこで、タイが喰ってくる巻きスピードは5ということでやっていたが、もう一度スピードを変えてやってみることにした。
- スピード5の巻き上げでは、餌取りにやられてしまう。スピード8でやってみると、餌取りにやられないことが分かった。しばらくすると、ヒットした。スピード11でもヒットすることがあった。
- 「鯛ラバやジグでは落ちてくるものに興味を示す。着底後、止めてしまうと魚に見切られてしまう。」ということであるので、餌であっても同様と考えた。着底したら素早く糸ふけを取り、巻き上げることを心がけた。これも良かったと思う。巻き上げ後すぐに当たるということも何度かあった。
- 定速の巻き上げだけでなく、時々、誘い(軽くしゃくる)を入れるとも聞いたので試した。1回だけヒットした。
- 底から5mまでが当たり棚であった。「底から10mまでを狙う」というアナウンスだったが、6m以上で当たることはなかったので、底から5mまでと考えた。
- 電動リールでの巻き上げでは、“底から5mまで”を3回くらい繰り返して、当たりがなければ、餌チェックとした。
- 隣の方がカンパチを釣り上げた。カンパチが回ってきたと判断し、太急ぎで餌を付け替えて投入した。すぐに当たりがあった。かなり引く。ドラッグがすべる。カンパチだった。引きの割に小さかった。カンパチの引きはとても強いということだ。
- その後もカンパチがあがってくるが、私には当たってこない。船長に尋ねたが、これといったアドバイスはなかった。2尾釣った隣の方が終了後、「カンパチは底から5m上だ」とつぶやいていた。
- 終了時間の6時に近づいてきた。底でも餌が残ってくる。餌取りがいなくなった。「6時になったら終了です。」とアナウンスがあった。その後、当たりもなく納竿となった。
- 船長のアドバイスで、「巻きスピード、誘いを入れるなど、餌取りをかわして本命を狙う。おもりの重さを変えることも重要。」とあった。今日はおもりを変えることをしなかった。
- 振り返ってみれば、ウマヅラハギやホンハギを5尾も釣った。巻き上げで釣っていたからであると思う。

【釣り方1】 餌取りをかわして本命をねらう

- 餌取りにやられないスピードで、底から巻き上げてくる。
できるだけ遅いスピードで、かつ、餌取りにやられないスピードで巻き上げてくる。
- 巻きスピードは時間帯によって変わるので、餌チェックで確認する。
- 巻き上げ中に、ときどき、誘いを入れる。誘いをいれた方がよいときもある。
- 仕掛けが着底したら、すぐに巻き上げに入る。スピードは考えなくてよい。糸が張ってから調整すれば良い。
- 今日は底から5mまでが当たり棚だった。当たりがなければ、底から5mまでを3回繰り返した。それでも当たりがなければ、餌チェックを行った。

【釣り方2】 餌取りにやられることを覚悟のもと、底で釣る。

- 「おもりが底をたたくようでは釣れない。おもりを浮かしておくか、底につけておく。」と聞いたことがある。これまでおもりを底につけて、糸を吹かせておいた方が釣れたという実績がある。
- 糸を吹かせる量で釣果が変わることがある。

※釣れないと感じたら、いろいろ試すことだ。

※釣り日記を読んでから釣行したい。